

第10回市民会議おける意見

第1部会 分野		人権		男女共同参画
		人権文化の醸成	人権の擁護	男女共同参画社会の構築
ゴール・イメージ		幅広い交流をする人が増える (差別について)“そんなことアカン”と皆が言える 皆が笑顔でいられる社会 災害時に近所の助け合いがある	問題を抱えた全ての人の話を聞ける場がある	垣根に捉われない人が増える ワークライフバランスを皆が意識する 人権意識が高まる
成果指標		人権に関する集会の数が減る “エコ家族”のような、“人権家族”が増える	相談件数が増える	出生率の向上 産休を取る人(男女とも)が増える
協働のあり方	行政の行動	分野の垣根(固定観念)を取り除く 人権関連の施設・設備を市民が使いやすいようにPRする “人権家族”制度をつくる 市民による学習会を支援 人権について地域の人が集まって話ができるようなきっかけづくり 人権について楽しく(茶会、飲み会など)話ができる場の 父親が参加しやすいような学習会の設定	気軽に相談ができるような場づくり 相談機関のPR 気軽に相談ができる場づくり	待機児童が減るような、保育機関の整備 男女共同参画について気軽に話ができるような機会をつく 悩みを持つ人が気軽に相談に行ける機関のPR 全ての人がワークライフバランスを実現できるような制度
	市民・地域の行動	分野の垣根(固定観念)を取り除く まずは家庭から、ということで、家庭における取り組みを増やす 若い世代への伝統・文化継承	地域の人が集まる機会(運動会・夏祭り・災害マップづくり等)を生かして、相談体制の確認 気軽に相談ができるような場づくり	男女共同参画について気軽に話ができる機会をつくる
	事業者等の行動	多文化共生社会の推進(企業・大学)	気軽に相談ができる場づくり	産休を取りやすい風土づくり 全ての人がワークライフバランスを実現できるような制度
その他		例えば、人権センター等の施設を市民が使用する場合に、人権に関する内容のみ使用できることについて、内容を幅広く捉える “エコ家族”とは、環境にやさしい生活習慣(エコライフ)を身につけるために、家族が目標を決めて協力して取り組む滋賀県のパログラム。その“人権”版があると仮定し 現況として、施設・設備についてPRがいきわたっていない 現況は母親の参加が多いため 伝統・文化の中に、人権にまつわる内容が含まれていることがあるため、それを継承していく必要がある	既存の相談機関では、相談しづらく感じる人もいたため「すべての人が」とした。また「問題が解決」までは行かなくても、話しを聞くだけでもよい場合もあるので、「話を聞ける場がある」とした。 気軽に相談ができるようになれば、件数が増えるはずである	現況は男女ともに産休をとりづらい風土がある 人権意識が高まれば、男女共同参画の意識も一緒に高まる



第3部会 分野

		住宅・住生活		道路・交通			
		住まいと住生活の魅力向上	“まちなか”の魅力向上	安全で快適な道路づくり	公共交通体系の充実	バリアのないまちづくり	
ゴール・イメージ		安心していろんな世代が暮らせるまち	草津に住む人がまちなかに滞留する 安心して楽しめるまちなか	交通渋滞がおこらない ふるさと感じる道づくり	安心してまちなかを行き来できる	安心してまちなかで過ごせる	
成果指標			昼間人口の増加 店舗の減少がとどまる。新しい店舗が増える まちなかを歩く人の数が増える	参考資料と違う指標を！新しい指標を作る	参考資料と違う指標を！新しい指標を作る	参考資料と違う指標を！新しい指標を作る 年代別のアンケート まちなかを歩く人の数が増える	
協働のあり方	行政の行動	行政による、安心して暮らせるような総合的な支援	活性化の取組を面として広げる	将来のビジョンを明確に示す	将来のビジョンを明確に示す	将来のビジョンを明確に示す	
		行政によるエコライフのPR	行政による、宿場町らしいまちづくりの誘導		商店街の活性化とリンクした交通体系の検討		
			行政が、店主のやる気をもりたてる		いろいろな町内、いろいろな思いをどうまとめていくのが課題		
			宿場町らしさを打ち出す				
			草津らしいツアーイベントの開催				
	市民・地域の行動		事業主や地域住民をリードしていくような、魅力ある青写真を示す				
			地域の将来像、市民や地域からも打ち出す	地域の将来像を打ち出す		地域の将来像を打ち出す	地域の将来像を打ち出す
				市民や地域が協力して、不法駐輪をしないようなモラル向上を促す 市民や地域が、家の前の維持管理(清掃)などに協力する 市民や地域による、草刈のボランティアなどを実施			
事業者等の行動		活性化の取組を面として広げる 宿場町らしさを打ち出す 草津らしいツアーイベントの開催					
	その他	ハード面では緑の多い住宅地。 世代によって魅力と感じるもののイメージが異なる。 緑の多さ、交通機関や道路の充実などが不可欠。 買い物のしやすさ、利便性も重要。 ソフト面では子育て環境、医療関係の充実が住みやすさに。 子育て世代にとっての暮らしやすさ。 防災時に近隣で助け合えること。 エコなまちづくり。太陽光発電などへの補助金など。	草津らしさを打ち出すこと。 子ども高齢者も楽しめるように(安心して楽しめるように)。 遠くに行かなくてもまちなかで十分楽しみがあるように。 高齢の方も、車ではなくバスで出かけられるように。	駅周辺が混雑。 車交通とまちなかのアクセスを考えていくこと(まちなかの利便性)。 歩行者も安心して歩けるように。 道で遊んだ思い出など、ふるさと感じる道づくりも必要。	交通渋滞を緩和するくらいの公共交通機関の充実。	車と人を分けていくこと。 安心して歩けること、そして楽しい道づくりを。	

第4部会 分野

		地域コミュニティ活動の活性化	コミュニティ・市民自治 市民活動の活性化	市民まちづくり支援体制の充実
ゴール・イメージ		多様なあり方が尊重される(コミュニティ活動への多種多様なかわり方)	市民活動の自由度が高い	必要最低限の行政支援が揃っている(市に依存しないことが前提)
		流動的な人(ヨソモノ)もうまくかわられる(ルールもできる)	市民活動が継続する	個々の市民まちづくりのニーズに対応した支援・サポートが充実する
		住んでいるところへの関心がある		
成果指標		町内会ごとのありようがある(対応するサポートの多様化)	市民活動の自由度の高さ	支援メニューの数(選択の幅の広さ) 支援メニューの認知度(市民に知られているかどうか)
協働のあり方	行政の行動	学校行事への参加を促す	民生委員制度など、行政にしかできない個別対応で、行政の役割を果たす	活動のための情報(補助金・利用可能施設等)の情報を得られるしくみづくり
		町内会をもたない新しい地域へのフォローをする	ふんわりしたサポート(直接ではなく)	遊休施設の活用(選挙の投票所と同じくらいの規模で施設開放していく)
		各市民センターに市民活動のパートナーとなる人材を配置し、継続的な支援を行う	市民活動や企業等の社会貢献活動について、情報提供を図る(例えば利用可能施設の紹介等)	活動に関するお金の支援のみでよい
		防災意識を下げないような支援をする		ボランティアセンター(社協)からの活動指導
		現代社会に合った多様な尺度の税制		嘱託でもよいので、「ゆうゆう人」などを活用し、エリア別にコーディネーターを委嘱配置する
	市民・地域の行動	地域と大学・企業との数居を下げていく	ボランティアの二極化(地域参加・個人の楽しみ)の現状の中、地域参加型ボランティアを増やしていく	
		自治会活動に参加したくなるようなモチベーションづくり(スポーツやサークルなどを通じた顔見知りの取り組み等)	地域社会のサポートが必要な「高齢者」と「子ども」の分野を、地域に関わるためのきっかけとする	
		町内会が、住民の困りごとを解決できる存在になる(できる部分で)	町内会では解決できない分野をNPOに任せていくことで、町内会の業務は限定的にしていく	
	事業者等の行動	10,000人以上の学生が地域に関われるように	企業・大学の施設を提供する	
		企業コミュニティの存在	市民活動を社員ぐるみでやっていく	
		ボランティア活動・イベントで企業・大学と連携する	ボランティア活動・イベントで企業・大学と連携する	
				大学へ遊びに来てもらう(地域住民がゲストに)
その他		(受益者負担型)を導入するなどユニークな考え方も必要	ボランティア休暇は制度があってもなかなか取れない	
		地域と大学・企業との数居がまだ高い(京都に比べて)		